

今日のトピック 米国の雇用統計(2015年6月)

雇用は増加基調を維持、賃金は前月比横這い

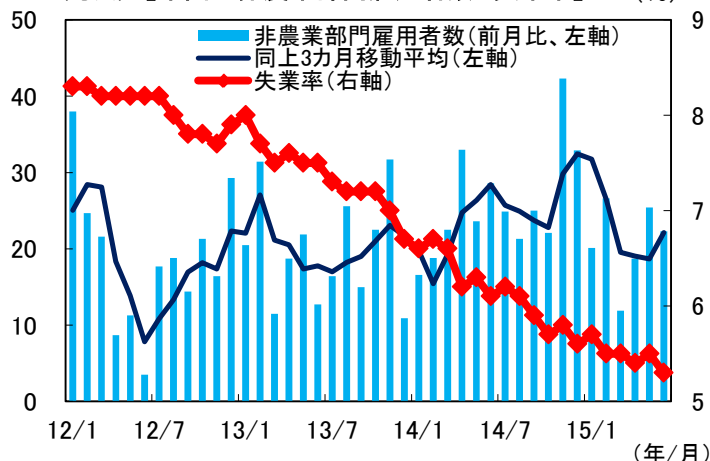
ポイント1 雇用者数は22.3万人増

失業率は5.3%に低下

■6月の非農業部門雇用者数は前月比22.3万人の増加となりました。市場予想(ブルームバーグ集計)の同23.3万人増をやや下回る結果となりましたが、月平均20万人超の雇用増加ペースを維持しました。

■一方、6月の失業率は5.3%と、5月の5.5%から0.2%ポイント改善しました。労働参加率が62.6%と、1970年代後半の水準まで低下したことを踏まえると、職探しを断念する労働者が増えたことが失業率低下の要因と考えられます。

(万人)【米国の非農業部門雇用者数と失業率】 (%)



(注)データの期間は2012年1月～2015年6月。

(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

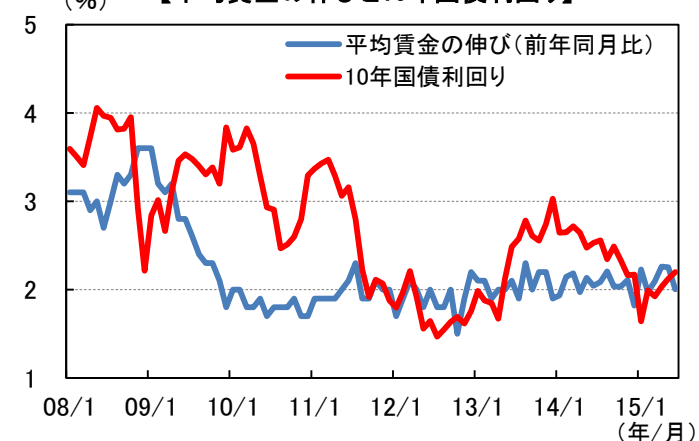
ポイント2 サービス部門の雇用が好調

賃金上昇率は前月比横ばい

■非農業部門雇用者数のうち民間部門は前月比22.3万人の増加でした。このうちサービス部門が同22.2万人増と、引き続き雇用の拡大をけん引しています。なかでも個人消費の拡大を背景とする小売業の雇用増加が目立ちました。

■時間あたり賃金は前月比横ばいとなり、前月の同+0.2%(速報値は同+0.3%)から伸びが縮小しました。前年比でも+2.0%と、前月の同+2.3%から鈍化しています。賃金上昇率は引き続き低い水準にとどまっています。

(%)【平均賃金の伸びと10年国債利回り】



(注)データの期間は2008年1月～2015年6月(月次)。10年国債利回りは月中平均値。

(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 金融市場は雇用や物価関連の指標に左右されやすい展開を予想

■雇用増加数は2015年1-3月期の月平均19.5万人増から4-6月期の同22.1万人へと加速しました。6月の失業率は2008年3月以来の低い水準であり、労働需給は引き続き改善したと考えられます。ただ6月の賃金の前月比伸び率が横這いにとどまったことから、早期の利上げ期待が後退し、米国債利回りは低下しました。

■米連邦準備制度理事会(FRB)は利上げの条件として、雇用の更なる改善と物価上昇の合理的な確信を挙げています。エコノミストの間では、6月の雇用統計公表後も、9月利上げ説が大勢を占めているようです。金融市場は利上げ時期をにらみ、引き続き雇用や物価関連の指標に左右されやすい展開が予想されます。

ここも チェック!

2015年06月26日 最近の指標から見る米国経済(2015年6月)

2015年06月18日 米国の金融政策(2015年6月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。